

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（九）

学・献・遊

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ。**
（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることになります。

この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中での人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していきたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもある形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○ アンリ・ルソー 素人画家として、ほぼ無名のままで生涯を終えたルソーの才能に惹かれた若きピカソは晩年ルソーをパーティに招待心の勲章こそ真の値打ち 本物は鑑定書ではなくモノが語りかける江戸時代の絵は江戸の明るさでみるものだ、と骨董商・中島誠之助

○ ネットで調べ正解を入手 このレベルの修練は排除完璧にやろうという気持ちを捨てる 策を弄さない名人 うまい・ヘタではなく、志が高いか・低いか芸は教えると腕が落ちるから注意、と六代目菊五郎

○ 一つの居所で理解力・受容力が培えれば どんな国でも仕事ができる精神的豊かさをめざす 弱さを知り尽くした上で強みの主張はしない普通のは誰でも作れる いいものを作ろうとするから失敗もする思った通りでなく技術を超えた偶然の刀が面白い、と刀匠・河内国平

献

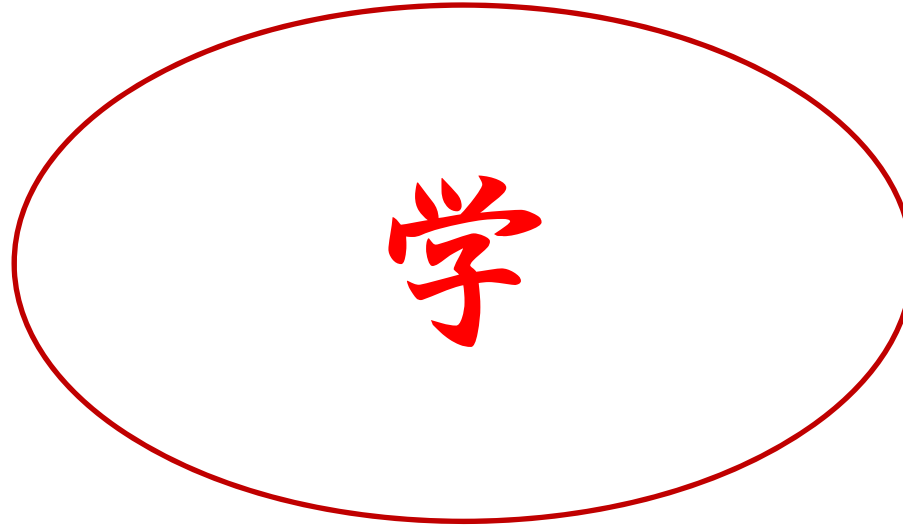
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○立つ歯磨きチューブ タテに置いて最後まで絞る、二つのニーズを解決
顧客に負けないよう顧客の中へ飛び込む 環境を変えつつ発想を変える
転がるのに備えて転がる練習 売上げの伸びより利益の伸びを高くする
デザインこそ材料の命 生活をデザインで観る癖を、と漆聖・松田権六

○百人の称賛の裏には同じ数の批判者がいるのが道理
企業経営 昔は偉い人、今はプロでないとやれない
経営トップ 最も問題を抱えているところに構える
正しい決定には適切な意見の不一致、とドラッカー

○自分には何も見えていないという自覚 人間でも下には下がある
地力を積み上げる 教わっていないことがちゃんとやれて一人前
グーグルは テクノロジーとリベラルアーツの交差点に立つ会社
散る時を知り 花も花なれ 人も人なれ、とは細川ガラシャ夫人



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○知識獲得は重要 問題はその先の解きほぐし・咀嚼・消化 それが血肉に知識獲得手段は多様で便利に ただ血肉化する過程は自己責任による編纂理想は果てしもなく遠い場所にある 一方で理想はいつも己の傍らにある是非初心忘れるべからず・時々も老後も初心忘れるべからず、とは世阿弥

○どう筆を動かそうかと考える間はダメ
一〇〇回以上修練して無意識で一挙に
一文は無文の師、他流勝つべきに非ず
昨日の我に今日は勝つ、と柳生新陰流

○己の画風を体得できるためには最後まで独学を貫く
絵がどういふもので大混乱しても絵から逃げない
教育も映画もオリジナル その時々ですべて異なる
無人の広野を走る勇気を持て、と映画監督今村昌平

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。
主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（九）」（**抜粋**）

著者 大浦勇三

二〇一四年七月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。